

基本の塗床補修ガイド ～エポタフェース～

初めての床補修をされるお客さまに、製品ご購入前に知っていただきたい一般的な「施工の流れ」をご紹介します。実際、施工される場合は、商品に同梱されている『施工の手引き』をよくお読みになって、作業を行って下さい。



◆一般的な食品工場床のよくある条件◆

- ☑ 現場の温度は 20℃前後や冷蔵庫 (5℃) 内など。
- ☑ 台車は通るが、フォークリフトなどは通らない。
- ☑ 水や油、洗剤を使用。
- ☑ 平滑仕上げにしたい。

ポイントは、「道具の準備」と「下地処理」

0 道具の準備

電動工具カッターやサンダーをお持ちの場合は、電動工具を使用していただくと仕上がりも綺麗です！でも、初めてのお客さまで、小さな面積の補修や電動工具のご購入は見合わせるといった場合は、下記の道具セットもご用意しております。

特に、下地処理セットの#30 サンドペーパーは、あまり市販されておりません。研磨力がありますので、床の健康面を出す(劣化していないきれいなコンクリート面まで研磨する)のに最適です。

エポタフェース用工具セット



写真左から

- ゴムべら (125mm)
- マスキングテープ(巾 30mm)
- 金べら (細)
- 木べら(巾 30mm)

基本の下地処理セット



写真左から

- ワイヤブラシ
- ハンマー付皮すき
- #30 サンドペーパー (2枚)
- スッキリコン (100ml)

1 下地処理をする

『基本の下地処理セット』を使用した場合の下地処理

- ①「ハンマー付皮すき」を使用し、劣化している塗膜をはがしきります。浮いた塗膜が残っていると、補修した後もそこから剥がれてしまいます。
剥がれが止まらない場合は、カッターで四角く見切ってください。
- ②右写真赤枠の塗膜と床の境目には、埃や油分が溜まっています。「ワイヤーブラシ」を使って、しっかり掻き出して掃除機で吸い取ります。
- ③「#30 サンドペーパー」で、赤枠内の床をこすり、健康なコンクリート面が出るようにし、掃除機でしっかり吸い取ります。
- ④「スッキリコン」をウエスに含ませて油分や細かいゴミを拭き取ります。



2 エポタフェースを混ぜる

『エポタフェース用工具セット』を使用した場合

- ①「木べら」を使用し、主剤と硬化剤をよく混ぜ合わせます。詳細は、ご購入後の施工手引きをご覧ください。

3 流し込む

『エポタフェース用工具セット』を使用した場合

- ①「マスキングテープ」を旧塗膜とコンクリート面ぎりぎりのところに貼ります。(右写真黄色)
- ②「ゴムべら」や「金べら」、「木べら」などお好みの道具でよく混ぜ合わせたエポタフェースを流し込み、広げます。

※この時、旧塗膜にエポタフェースが重ならないように境目までを対象に塗り広げて下さい。
旧塗膜にかかると、補修後、剥がれやすくなります。



- ③マスキングテープは、すぐに剥がします。硬化が始まると、剥がせなくなってしまいます。

4 片づける

『基本の下地処理セット』を使用した場合

- ①「スッキリコン」で、使用した道具を十分拭き取ります。硬化し始めると取れなくなるので、使用后、すぐに拭き取ってください。